



◆当面する重点作業

1. 中生種の着色管理を適期に進める。
2. 高温乾燥が続く場合は、定期的にかん水を行う。降雨が多く滞水する場合は排水を行う。
3. 高温により、日焼け果が多いので葉摘みに注意する。
4. シンクイムシの発生が多い場合は防除間隔が開け過ぎないように散布を行う。
5. サンふじの見直し摘果を再度行い、青実果・変形果・小玉をなくす。
6. 炭そ病の発生が見られた場合(病斑部は少しへこむ)は見つけ次第埋める。
梅雨時に感染した被害果を除去し2次感染を減らす。
7. ハダニの発生が散見されるので注意する。

◆特別薬剤散布について《必ず実施》

本年は、開花が早く薬剤散布が前倒しになっており、9～10月の防除が不足してしまうため、下記内容にて、追加の防除を実施する。

1. 散布時期：9月9日(土)～9月12日(水) 散布日 月 日
2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前/使用回数
展着剤	10ml	—	—
アーデントフロアブル	50ml	シンクイムシ類	前日/3回
オーソサイド水和剤	125g	炭そ病・黒星病・斑点落葉病・すす病・すす点病	前日/6回

3. 散布量：10a当り⇒500ℓ以上
4. 散布上の留意事項
 - ①アーデントフロアブルに代えて、㊸イカズチWDG1,500倍(水1000ℓ当り66g・収穫前日まで/年2回まで)を使用してもよい。
 - ②果面の汚れ軽減のため、通常の展着剤に代えて特殊展着剤ササラ3,000倍(水1000ℓ当り33ml)を使用しても良い。ただしベフラン液剤との混用によりササラの特性である消泡効果は低下し、果面の汚れ防止効果のみとなる。
 - ③降雨が多い場合は、通常の展着剤に代えて固着性展着剤アビオンE1,000倍(水1000ℓ当り100ml)を使用しても良い。
 - ④収穫中の品種には飛散しないようにする。
 - ⑤ハダニの多い場合は通常の展着剤に代えて特殊展着剤スカッシュ1,000倍(水1000ℓ当り100ml)を使用しても良い。また果面の汚れ軽減にもなる。
 - ⑥ハダニ類の発生が見られ、ダニ剤を使い切ってしまった場合に、果樹技術員までご相談ください。
 - ⑦ダニ剤として年間何回でも使用可能なアカリタッチ乳剤1,000倍(水1000ℓに100ml・収穫前日まで)を単剤で特別散布しても良い。

散布から1週間ほどで再び成虫が発生し始めるため、発生状況を確認しながら繰り返し使用するとより効果的である。物理的作用による効果の為、抵抗性は発達しない。なお卵には効果がない。ダニ剤を散布する2～3日前にアカリタッチ乳剤を使用する事も有効である。

高温時の散布は控える。展着剤は使用しない。単剤での散布を基本として使用する（薬害防止）

◆中生種の着色管理について

- ①紅玉の葉つみ・玉まわしを徹底し着色向上に努める。
- ②秋映で葉つみの時期が早いと日焼けをおこすので、9月中旬頃から実施する。
西日のあたるところは日焼けになりやすいので、特に注意して行う
行う場合は軽く（密着している葉のみ）実施する程度とする。
着色に影響しない果実周りの立っている葉を残し、糖度向上と日焼け防止を図る。
- ③日焼け防止の為に葉摘みや支柱立ては果実温が十分に上がった午後から実施する。
また、徒長枝の切りすぎや葉の摘みすぎに注意する。極端に強い葉つみは日焼けの発生や着色を不鮮明にし、さらに来年の花芽形成も悪くするので注意する。
※葉摘みの程度：弱く：2～3枚、普通：5～6枚、強く：10枚以上

◆紅玉・シナノドルチェ収穫及び出荷目揃い会開催について

下記日程で開催しますので最寄りの会場に出席下さい。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
9月 7日	木	午前11:00	西部流通センター	寺沢
9月 8日	金	午後 2:00	若穂果実流通センター	松沢
9月12日	火	午後 2:00	信更流通センター（シナノドルチェのみ）	寺沢
9月15日	金	午後 2:00	真島フルーツセンター（紅玉のみ） ※シナノドルチェは、直接果樹技術員まで。	根津

◆9月肥（礼肥）の施用について

葉を若返らせて光合成を盛んにし、花芽の充実・貯蔵養分の蓄積を図り、翌春の初期生育（開花・結実）を助ける。ただし、秋伸びを避けるため、若木・強勢樹は施用しない。

1. 施用時期・・・①早生種 つがる＝9月中旬
②中生種 秋映・シナノスイート＝収穫終了後
2. 施用量 ③一般的な成木の場合 ・有機専科 1袋を施用する。
(10a 当り⇒主体となるチッソ成分量で1～2kgを目安にする)
3. 留意事項
①有機専科以外を使用する場合は含有成分量を計算し、適正量を施用する。
ただし、カリ過剰になっている園はカリの入っている肥料の施肥を控える。
醗酵ケイフンにはカリが多く含まれているため過剰になりやすいので注意する。
また分解の遅い肥料は時期を早めて施肥する。
②樹勢が強い場合は、9月にスミクリン5袋を施用する。軽いため風の無い日を選んで施肥する。

◆新しい化（高密植）栽培の9月肥（礼肥）の施用について

9月～10月に施用した養分は、根部に蓄積され3～4月の初期生育に使用されると共に、凍害軽減にもなり、新しい化栽培において秋の肥培管理は特に重要となる。

主幹先端の伸長が30cm程度になるよう調整する。

1. 施用時期・・・①早生種 つがる＝9月中旬
②中生種 秋映・シナノスイート＝収穫終了後
③晩生種 ふじなどへは今は施肥せず、3月頃になってから行う。

2. 施用量

①定植2年目・・・「グリーン長野果樹専用有機入り72」1袋と「果樹の力」1袋

②成木・・・有機専科2袋（樹勢が弱い場合は3袋）

収量が多くなるに従い樹勢に応じて調整する。施肥は株元中心に行う。

3. 樹勢の判断 主枝延長枝の適正伸長

定植1年目・・・30～50cm（100cm伸びても良い）

定植2年目・・・50～100cm（150cm伸びても良い）

定植3年目以降・・・30～70cm

4. その他の肥料

新しい化栽培では生産量が多いことから、カリウム（加里）を多く消費するので、「有機専科」に代えて「醗酵けいふん（ペレット状）」3～4袋でもよい。

「ペレット状」と「粒状」では成分が異なるので注意する。また土壌PHが高い場合は使用しない。

なお、土性診断を行うとカリウム過剰になっている園が多いので、今の所欠乏問題は無いが、今後は施肥も必要になる。

「醗酵けいふん」は窒素肥料も含まれるが、加里や石灰も多く含まれるため、過剰の園では控える。

◆葉面散布剤の使用について

いずれも定期防除に混用して散布しても良い。日中の高温時には散布しない。

1. ふじの着色向上対策

ふじの地色の抜けを良くし、着色向上・糖度の向上を図ることを目的に、次のいずれかのリン酸肥料を2～3回散布する。なお、強樹勢やハダニ類の被害にあった樹は、必ずしたい。

1) 使用肥料・倍率の例

商品名	使用倍率	内容
メリット赤	300～500倍(水100ℓ 当り 330～200g)	P10-K9-微量要素
色一番E	1,000～2,000倍(水100ℓ 当り 100～50g)	P42-K28-微量要素
カルビタP	770倍(水100ℓ 当り 130g)	N2.2-P14.5-K1.9Mg1.1 -Mn0.27-B0.31 カルシウム補給にもなる。

2) 使用時期：1回目9月中旬・2回目9月下旬・3回目10月上旬

3) 留意事項

①樹勢が落ち着いている樹で使用する場合は、第1回目の散布をメリット赤に代えて、メリット黄500倍(水100ℓ 当り 200g)を使用すると良い。

2. カルシウム欠乏対策

着果の少ない樹や毎年カルシウム欠乏（ビターピット等）発生の多い品種や樹、果実肥大のよい園でのカルシウム欠乏による生理障害軽減を目的に、次のいずれかのカルシウム肥料を2～3回散布する。

1) 使用肥料・倍率の例

商品名	使用倍率	内容
カルタス	1,000倍(水100ℓ 当り 100g)	Ca 10%
カルビタ	1,000倍(水100ℓ 当り 100g)	Ca 18.92%
スイカル	1,000倍(水100ℓ 当り 100g)	Ca 42%
ストピットⅡ	500倍(水100ℓ 当り 200g)	Ca 95.2%

2) 使用時期：9月中旬から、5～10日間隔で2～3回

3) 留意事項

①カルビタは発泡性があるので7分目の水で溶かした後に調整する。その後に農薬を混用する。

②ストピットⅡは汚れがあるので晩生種のみ使用とする。

3. 1) と 2) の共通留意事項

1. リン酸肥料とカルシウム肥料と基本混用しないが、カルタス又はカルビタは混用可能。
又は、そもそも混合されている、カルビタPを使用する。
2. 薬剤散布に混用してもよい。この場合展着剤は、不要です。

4. ハダニの被害にあった樹の対策

ハダニにより葉の色が赤くなってしまった場合は、葉の光合成能力が低下し果実の熟期が遅れや、着色、糖度が上がらない。

このため、地色の抜け・着色・糖度の向上を目的に、次のいずれかの葉面散布肥料を散布する。

1) 使用肥料・倍率の例

商品名	使用倍率
オルガミン	1,000-2,000倍(水100ℓ 当り 100-50 mℓ)
ケルパック66	500-1,000倍(水100ℓ 当り 200-100 mℓ)
友果	500-1,000倍(水100ℓ 当り 200-100 g)

2) 使用時期：薬剤散布の度に混用するとよい。単用散布でも可。

◆心かび果(心腐れ果)対策について

シナノドルチェとシナノスイートは、果心の位置がガクア部(尻)に近く大きな果実に心かび病が多い。また、花芽の悪い年や初期肥大の悪い年は心かび病(心腐れ果)の発生が多いことから、収穫前での対策として、樹上での選果・除去が必要となります。

シナノドルチェは8月末までを目安に、シナノスイートは9月中旬までを目安に、着色が著しく進んでいる果実・地色の黄化の早い果実は、樹上で除去する。

《栽培に関する問合せ》

寺澤(情報担当・篠ノ井西部・信田)：080-1188-5229/外谷(篠ノ井東部)：080-8048-6602

松橋(松代)：090-4816-6297/佐藤(川中島)：090-7179-9866

根津(更北) 080-1203-8576/松澤(若穂) 080-1191-5166

吉澤(全域・編集担当)：090-2543-0365/営農販売部(本所)：292-0930

○果樹のアドバイザー(流通センター長兼務)

※センター繁忙期になるため、電話をとれない場合がありますが、ご了承下さい。

伊藤(篠ノ井東部) 080-2239-6816/松坂(篠ノ井西部) 080-1188-413

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所/営農販売部(本所)：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部/農業資材課：299-3311